

スポーツ×テクノロジーへの取組み

『大会をショーケースとすることによる日本発の科学技術イノベーションの発信』のために、組織委員会としてはなにをすべきでしょうか？

「誰に向けて、どのような技術を、なぜアピールするのか」を検討する上で、「ICTのスポーツへの活用」を一つの切り口(戦略)として検討を開始しています。

ここではアスリートやスポーツ界に係る人々、競技を観戦する人々、競技を取り上げるメディア関係者など、さまざまな関係者の視点から、スポーツと新しいテクノロジーとを組み合わせることによるシナジー効果を総称して、スポーツ×テクノロジーと記載します。

スポーツ×テクノロジーの分類例

1. アスリート・コーチの目線

- ✓ モチベーション: アスリート強化／戦略強化
- ✓ 技術の事例: 用具の改良技術／パフォーマンス計測センサ／パフォーマンス分析エンジン／アドバンスト・スタッツ*など

3. TV視聴者・放送局の目線

- ✓ モチベーション: エンターテインメント性向上／臨場感向上
- ✓ 技術の事例: 4K放送／TVグラフィックス／スーパースローモーション撮影／ズームマイク／スタッツの表示など

5. ネット視聴者・配信事業者の目線

- ✓ モチベーション: 旧来チャネル(TV、観客)へのエンターテインメント性重畳／旧来チャネルの代替／SNS上での交歓など
- ✓ 技術の事例: マルチアングル映像視聴／より詳細なスタッツの提供／競技関連情報・サービスの提供／SNS・ファンサイトなど

2. メディア・コメンテータの目線

- ✓ モチベーション: コアなファンへのエンターテインメント性向上／独自分析の提供
- ✓ 技術の事例: アドバンスト・スタッツ*をもとにした分析提供

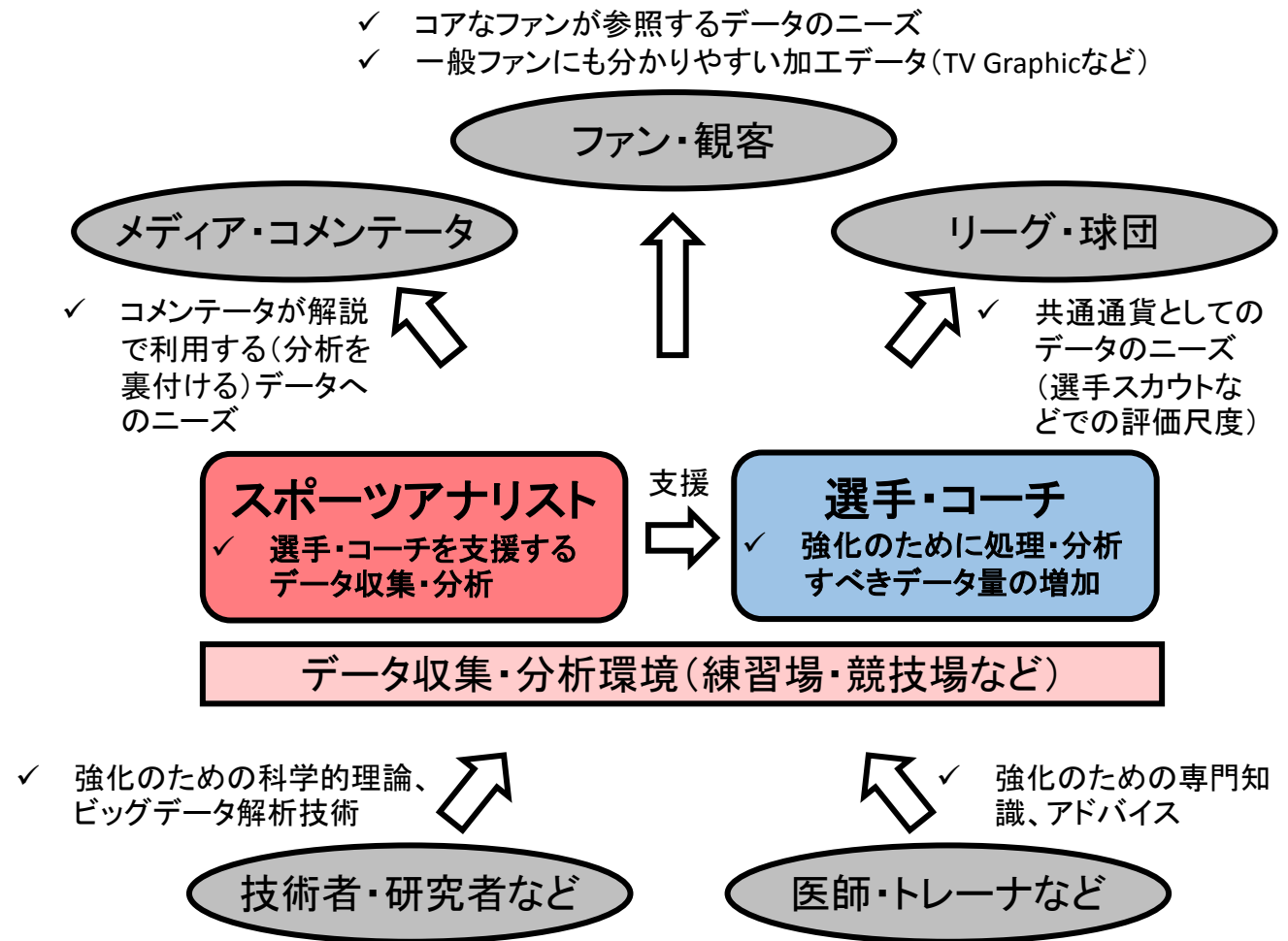
4. 観客の目線(競技場・パブリックビューイング)

- ✓ モチベーション: エンターテインメント性向上／分りやすさ向上
- ✓ 技術の事例: 大型ディスプレイ／8Kパブリックビューイング／高品質音響設備／自主撮影映像の編集&ネット上での共有など

*) アドバンスト・スタッツ=選手のプレー内容に関する統計情報(ベーシック・スタッツ)をもとに、より高度な分析を行った統計情報

【参考】データ収集・分析を中心としたエコシステム

- 欧米のプロリーグを中心に、選手のパフォーマンス強化や戦略強化のためのデータ収集・分析(アドバンスト・スタッツ)が進展しつつあります。
- スタッツの一部は、コメンテータやコアなファンにとっても商業的価値が認められています。
- さらに一般ファン向けにもわかりやすく加工されることで、さまざまなチャネル・メディアを通して、より競技を楽しむ材料として利用されつつあります。
- 一方、特に国内のアマチュアスポーツ界においては、スポーツアナリスト(データ分析して選手・コーチを支援できる人材)の層がまだ不十分です。
- 2020年大会におけるICT活用、および選手強化のために、**(1) スポーツ施設、競技場などでのICT環境整備と並行して、(2) スポーツアナリストの育成施策**も急務だと考えます。



今後の取組み(提案)

- 『大会をショーケースとする』ために、2020年大会およびその関連イベントにおいて、スポーツ×テクノロジーの最新事例(新しい技術、新しい分野・競技への応用など)をアピールするべく、オールジャパンで取組みを開始できないでしょうか。

【要素技術】

【課題】

【施策案】

アプリケーション

マルチアングル視聴／パフォーマンス分析／競技ファンサイト(アドバンスド・スタッツ提供)／PV制作支援アプリなど

放送局だけでなく競技団体・NPO・ITベンチャー・ファンクラブなど様々なプレイヤーによるアプリ構築を活性化できないか？

競技データを公開利用できる環境の提供／アプリ開発コンテストの開催など

プラットフォーム

映像解析・ビッグデータ解析エンジン／クラウド型映像編集機能／デジタルアーカイブ環境／VODサーバなど

スポーツアナリストの観点から、データ収集・分析環境の整備が必要ではないか？

スポーツアナリストの育成／アナリスト向けICT利用環境の整備

インフラストラクチャ

競技場WiFi／4K・8Kカメラ／モーションセンサ／デジタルサイネージなど

練習場・競技場におけるICT環境は、大会中だけの利用でなく、インフラ投資(レガシー)の観点で整備できないか？

大会利用後の活用方法の開拓と標準設計の推進